

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	54	大学等名	武蔵野大学
テーマ	テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、教育改革意識が全学的に浸透し、ディプロマ・ポリシーの到達度を測るための学科ルーブリック、入学から卒業までのきめ細やかな教育を行うための「初年次ゼミ」の全学導入など、本事業による大学全体の改革の推進の成果が見られ、評価できる。

事業の具体的な取組みの進捗状況については、各年度の計画に基づき事業を実施し、FD・SDを兼ねた公開シンポジウムの実施、事業報告書の発行等、努力の跡が見え、ある程度評価はできる。ただし、必須指標である「長期学外学修プログラムに参加する学生の割合」については、補助期間を通して目標値と実績値の乖離が見られる。要因の分析やそれに基づく改善策がとられているものの、引き続き数値の向上のため努力することが望まれる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長直轄組織の「教育改革推進会議」とその小委員会の設置、長期学外学修プログラム「武蔵野大学フィールド・スタディーズ（以下「FS」という）」の運用全体を統括する「学外学修推進センター運営委員会」を軸に事業を推進するなど、組織的な事業実施のための体制が構築されており、十分評価できる。また、「学外学修推進センター運営委員会」ではFS運営に係る課題、対策、危機管理体制等について議論が重ねられており、補助期間終了後も継続的に事業を展開できるように運営体制や予算等を強化している点も評価できる。

事業成果の普及については、学外学修プログラムの開発と実施を通して、地方自治体と連携・協働の仕組みが構築され、学生が主体となって地域課題を発見し、具体的な事業提案を行うなど、学生の成長とエンパワーメントにつながっていることから、先駆的なモデルとなる取組が行われていると高く評価できる。今後も、この取組と成果の積極的な発信と普及に努めることが期待される。